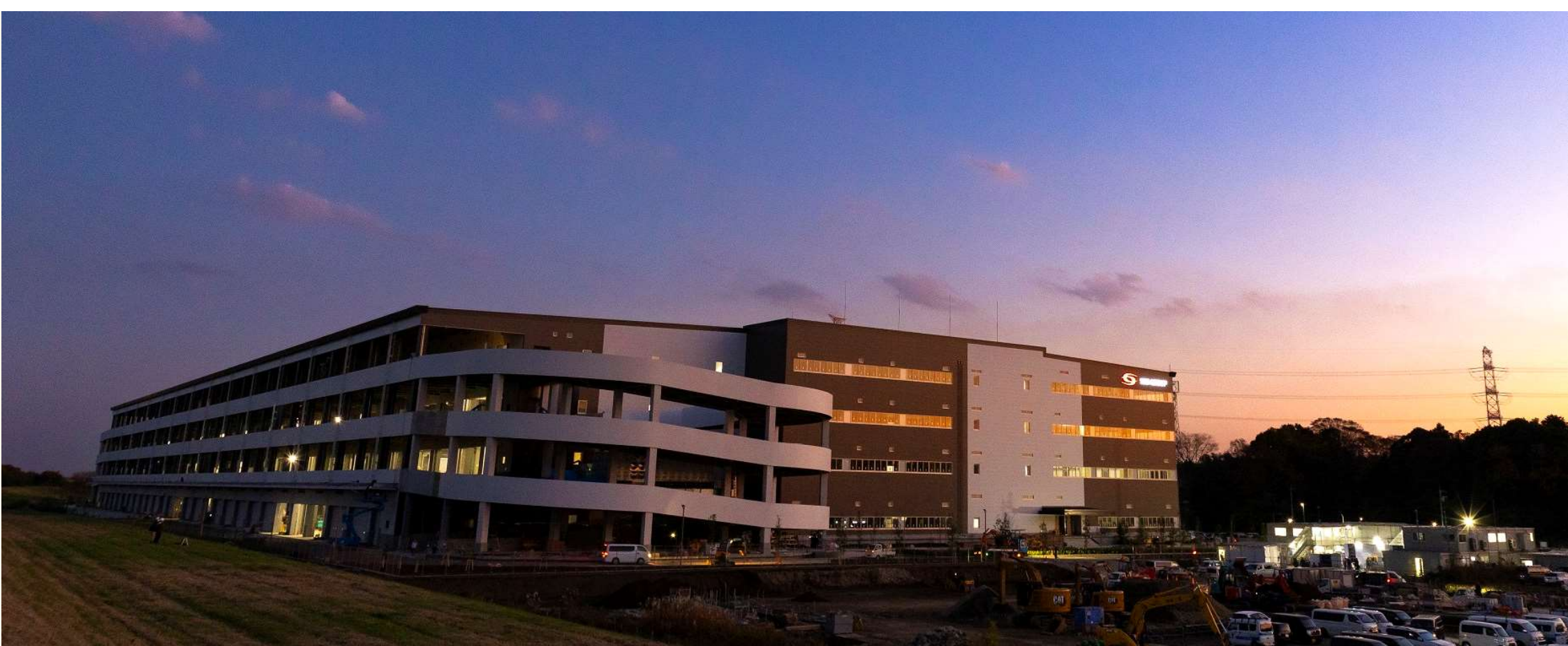


2023年度(2023年12月期) 決算説明資料

2024年2月14日

SBSホールディングス株式会社（東証プライム市場：2384）





01 2023年度連結業績概要

02 SBSグループの成長戦略

01 2023年度連結業績概要

02 SBSグループの成長戦略

2023年度 連結業績

- 物流事業における新規顧客獲得等による売上増加あるも、海上運賃下落や物量減、新拠点開設等によるコスト増により減収減益

(単位：百万円)

	22年度	23年度	増減額	増減率
売上高	455,481	431,911	△23,569	(△5.2%)
営業利益	21,844	19,719	△2,124	(△9.7%)
経常利益	21,404	19,747	△1,656	(△7.7%)
親会社株主に帰属する当期純利益	11,732	10,056	△1,675	(△14.3%)
一株当たり当期純利益(EPS)	295.39 円	253.20 円	△42.19 円	(△14.3%)

セグメント別業績

- 【物流事業】
- 国内物流は新規顧客獲得等による増収なるも、新拠点開設・コスト増等により減益
 - 海外物流は海上運賃下落や物量減により減収減益
- 【不動産事業】
- 不動産流動化実施により増収増益

(単位：百万円)

セグメント		22年度	23年度	増減額	増減率	増減内容
売上高	物流	433,295	408,684	△24,610	(△5.7%)	
	不動産	13,423	13,899	+475	(+3.5%)	横浜金沢物流センター流動化、東扇島倉庫流動化
	その他	8,762	9,328	+566	(+6.5%)	人材・マーケティング・環境事業増収
	合計	455,481	431,911	△23,569	(△5.2%)	
営業利益	物流	15,423	11,501	△3,922	(△25.4%)	
	不動産	6,282	7,962	+1,679	(+26.7%)	不動産流動化の実施により大幅増益
	その他	402	359	△42	(△10.7%)	人材・マーケティング事業コスト増
	調整額	△264	△104	+160	—	
	合計	21,844	19,719	△2,124	(△9.7%)	
利益率		4.8%	4.6%			

主要グループ会社別業績

- SBS東芝ロジ：海上運賃下落、半導体・家電等の物量減により減収減益
- SBSリコーロジ：国内事業は精密機器等が堅調に推移するも、海上運賃下落・海外物量減により減収減益

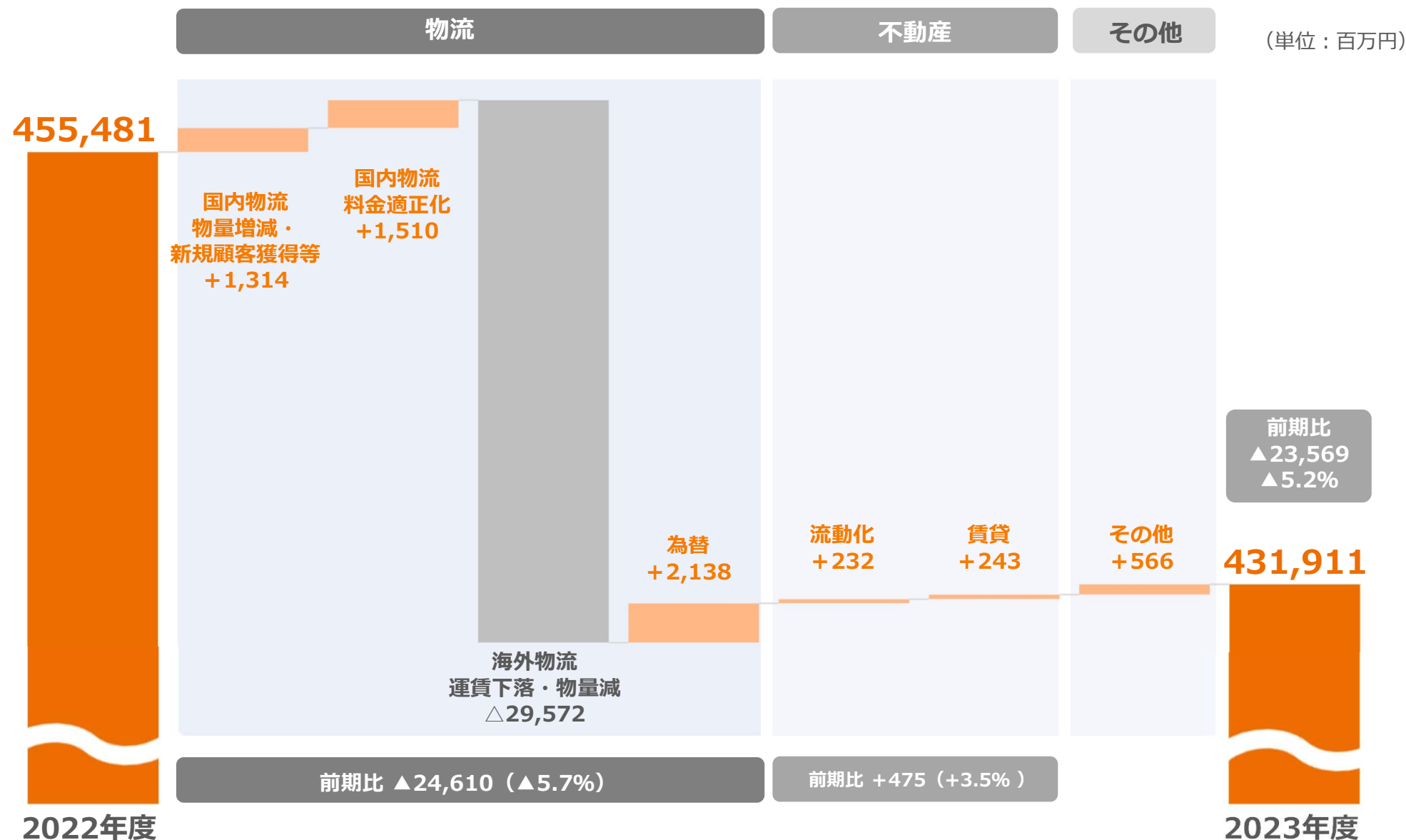
(単位：百万円)

		22年度	23年度	増減額	増減率	増減内容
SBS東芝 ロジスティクスグループ	売上高	129,236	115,140	△14,096	(△10.9%)	海上運賃下落、半導体・家電等の物量減
	営業利益	7,666	4,347	△3,318	(△43.3%)	
SBSリコー ロジスティクスグループ	売上高	111,152	101,311	△9,841	(△8.9%)	海上運賃下落、海外物量減
	営業利益	4,097	3,496	△600	(△14.6%)	
SBSロジコム グループ	売上高	68,847	71,017	+2,170	(+3.2%)	新規受注売上増、賃貸不動産利益減
	営業利益	5,511	5,347	△163	(△3.0%)	
3社 合計	売上高	309,236	287,469	△21,767	(△7.0%)	
	営業利益	17,274	13,192	△4,082	(△23.6%)	
その他 計	売上高	146,244	144,442	△1,801	(△1.2%)	
	営業利益	4,569	6,526	+1,957	(+42.8%)	
連結業績 計	売上高	455,481	431,911	△23,569	(△5.2%)	
	営業利益	21,844	19,719	△2,124	(△9.7%)	

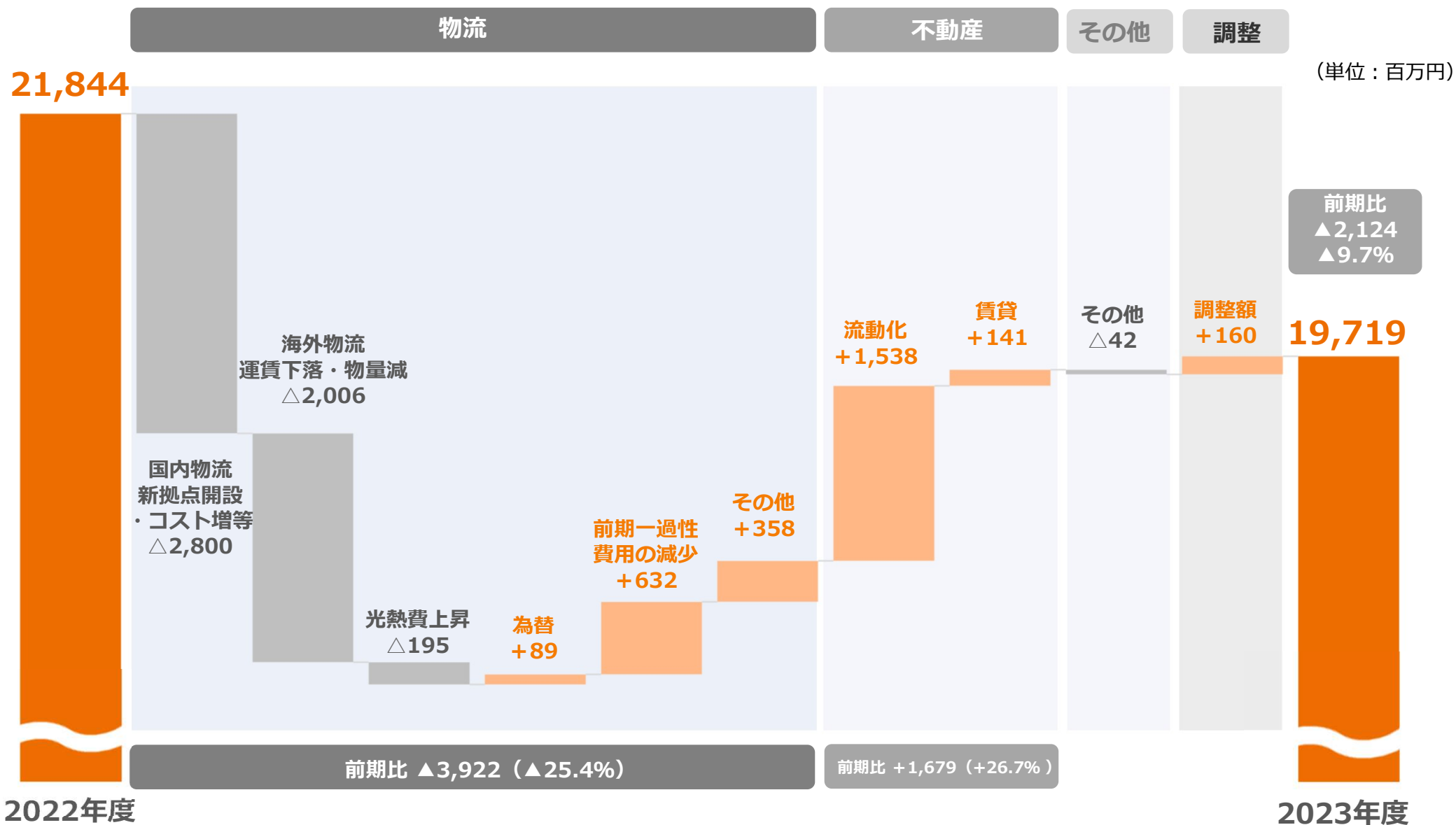
※1 数値は、社内管理ベース

※2 SBSロジコムグループは不動産流動化数値を除く

セグメント別売上高 増減要因



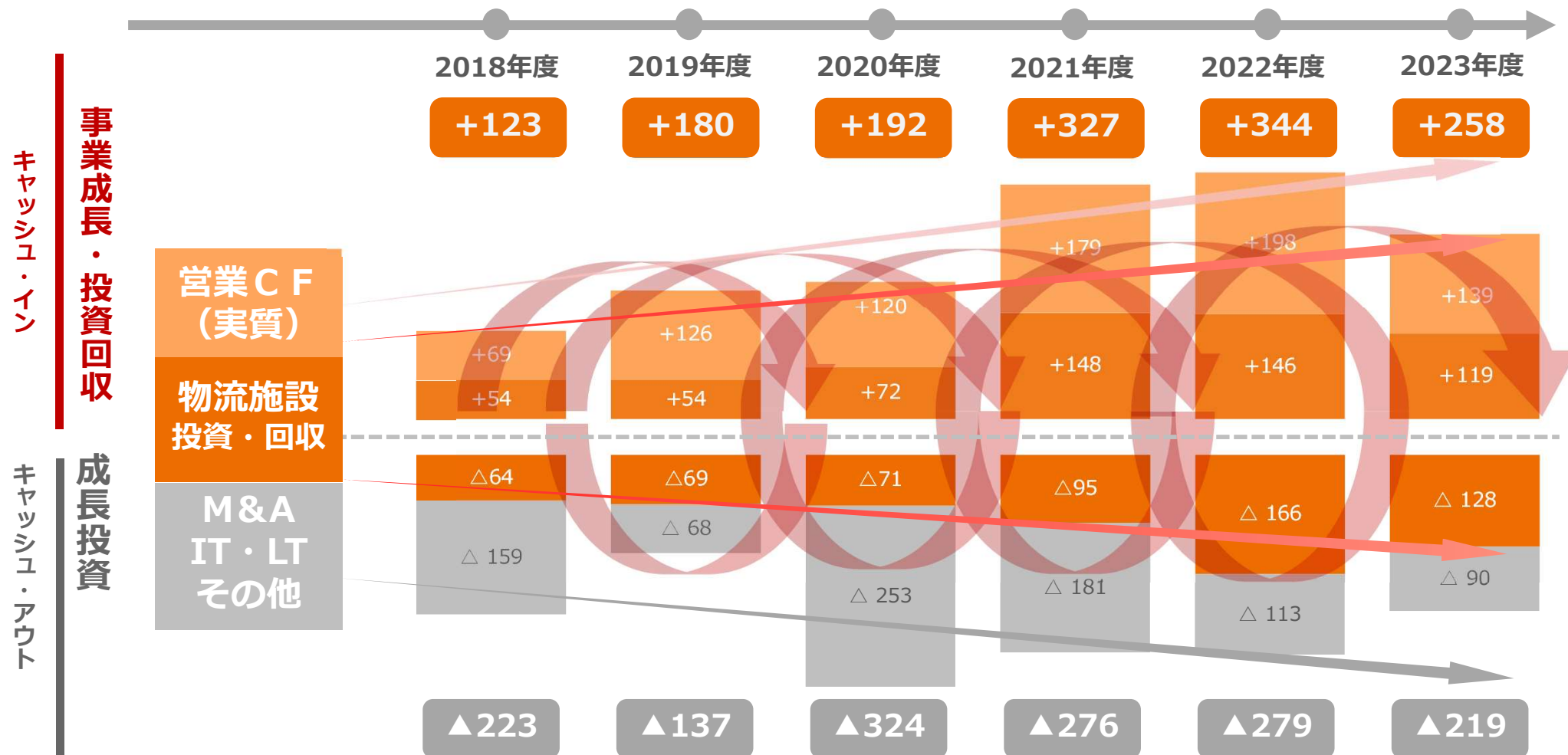
セグメント別営業利益 増減要因



キャッシュ・フロー創出力

- M&A・物流施設拡張によりキャッシュ・フロー創出力拡大。開発物流施設は投資・回収サイクルを加速
- 2023年度は野田瀬戸・一宮等の倉庫投資を実施する一方、既存開発物流施設の投資回収は順調に推移
- フリーキャッシュ・フローは、3年度連続プラスで推移

単位：億円

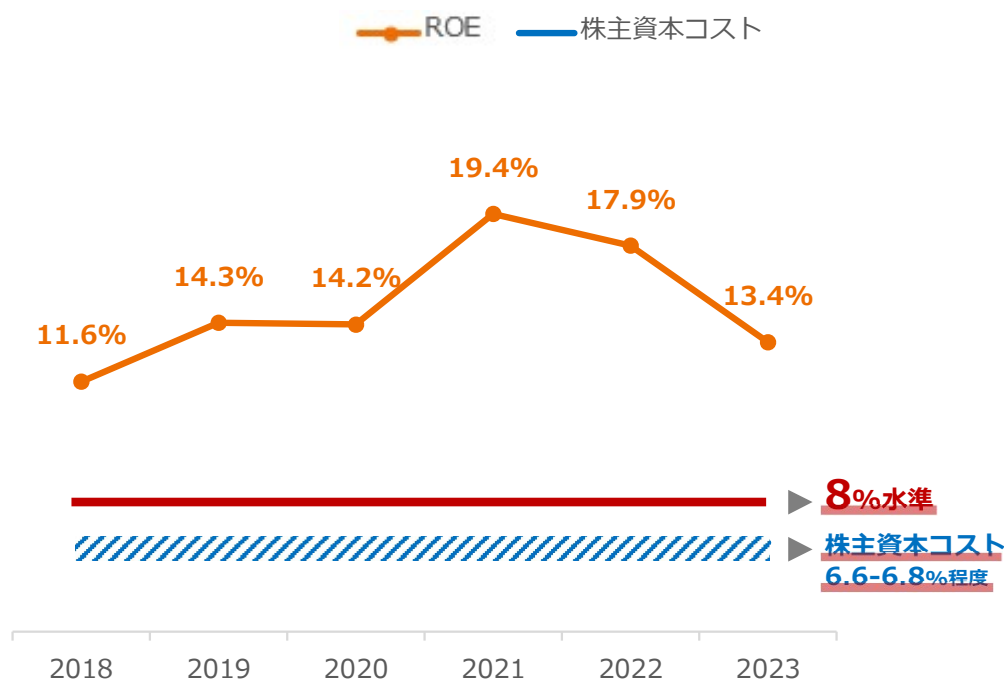


フリーキャッシュ・フローを「営業CF (実質)」・「物流施設 投資・回収」・「M&A IT・LT その他」へ区分しております。

資本コストと資本収益性

- ROEは株主資本コストを上回って推移。高いエクイティ・スプレッドを確保
- ROICも加重平均資本コスト（WACC）を上回って推移。ROICスプレッドは正の値

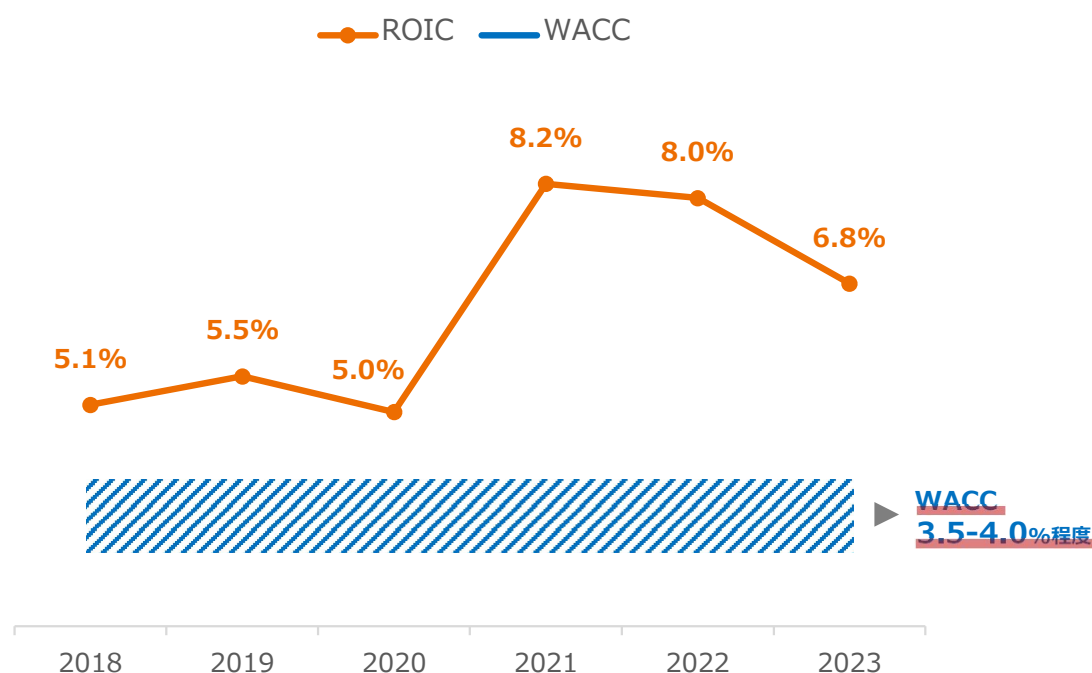
資本コスト・資本収益性の推移



株主資本コスト：CAPMベース

8%：投資家からの一般的な期待リターンを8%程度と想定した場合の水準

Copyright SBS Holdings, Inc. All rights reserved.



WACC：CAPMベース

注：2020年度はSBS東芝ロジスティクスのBS連結の一時的要因を除いた場合のROICは「5.4」%

24年度(2024年12月期) 連結業績予想

- 海外海上運賃は弱含みを想定するも、国内物流における新規顧客獲得、既存顧客との取引深耕に注力し、増収計画
- EC物流強化、新規物流施設の立上げ等新規事業コスト増加があるものの、物流事業における料金の適正化等を進め、増益計画

(単位：百万円)

	実績 23年度	予想 24年度	増減額	増減率
売上高	431,911	450,000	+18,088	(+4.2%)
営業利益	19,719	21,000	+1,280	(+6.5%)
経常利益	19,747	20,500	+752	(+3.8%)
親会社株主に帰属する当期純利益	10,056	10,500	+443	(+4.4%)
一株当たり当期純利益(EPS)	253.20 円	264.37 円	+11.17 円	(+4.4%)

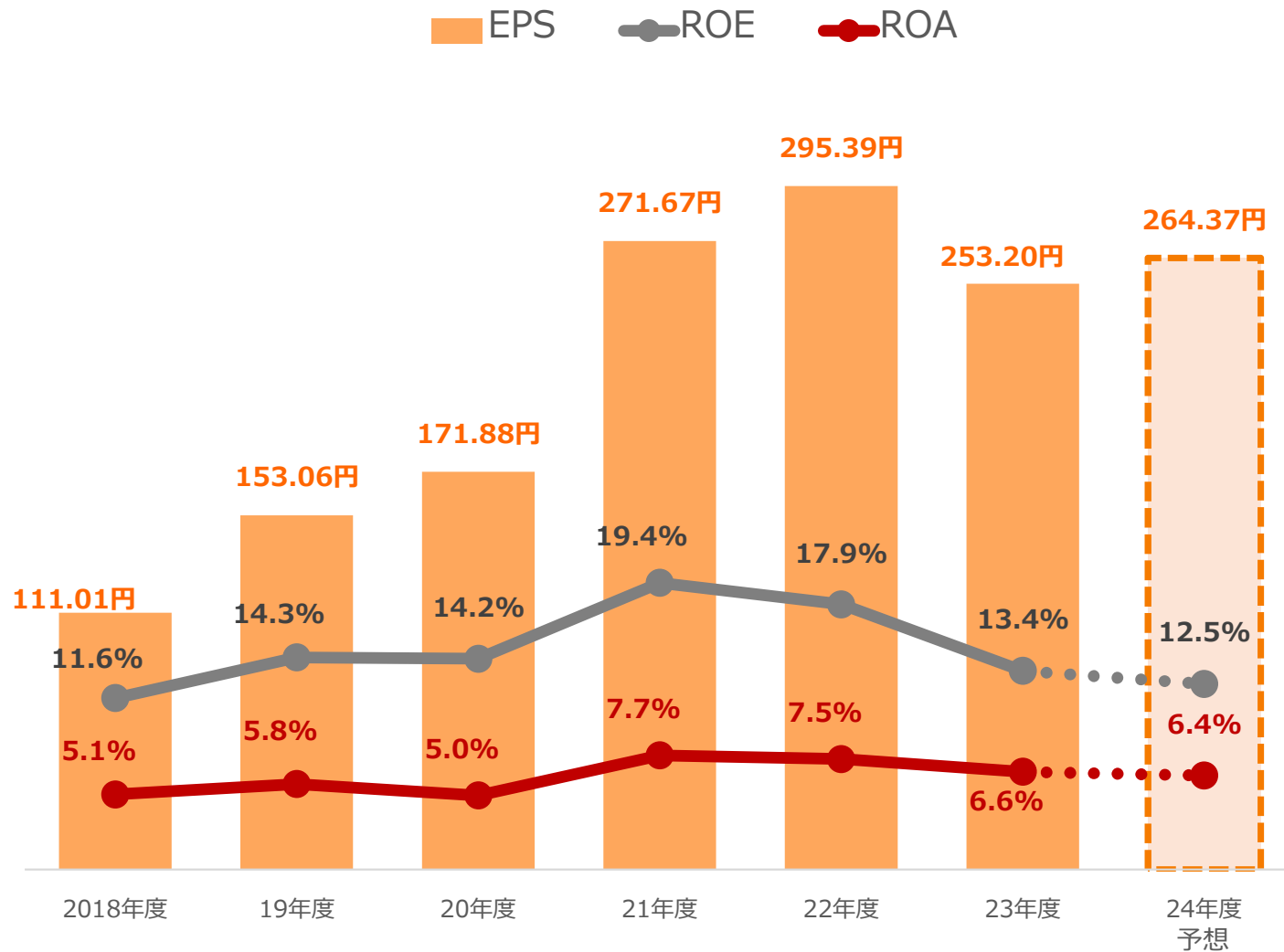
24年度(2024年12月期) セグメント別業績予想

- 【物流】新規顧客獲得・料金適正化等に注力し、海上運賃下落・コスト増をカバー
- 【不動産】不動産流動化の実施により増収・増益を計画

(単位：百万円)

セグメント		実績	予想	増減額	増減率
		23年度	24年度		
売上高	物流	408,684	424,800	+16,115	(+3.9%)
	不動産	13,899	15,190	+1,290	(+9.3%)
	その他	9,328	10,010	+681	(+7.3%)
	合計	431,911	450,000	+18,088	(+4.2%)
営業利益	物流	11,501	13,050	+1,548	(+13.5%)
	不動産	7,962	7,970	+7	(+0.1%)
	その他	359	400	+40	(+11.2%)
	調整額	△104	△420	△315	—
	合計	19,719	21,000	+1,280	(+6.5%)
利益率		4.6%	4.7%		

EPS・ROE・ROA推移

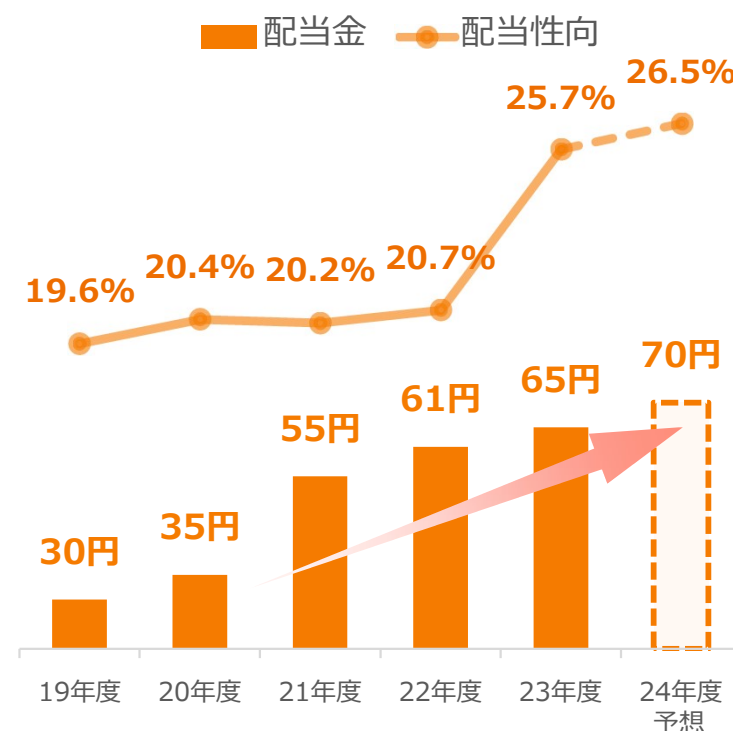


株主還元方針

- より強固な経営基盤の構築のために内部留保の充実を図るとともに、安定的な配当実施と業績に応じた配当水準の向上に努める
- 還元強化策として配当性向の引き上げを目指す（将来的には30%）

配当金の推移

	実績					予想
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
一株当たり配当	30 円	35 円	55 円	61 円	65 円	70 円
配当性向	19.6%	20.4%	20.2%	20.7%	25.7%	26.5%



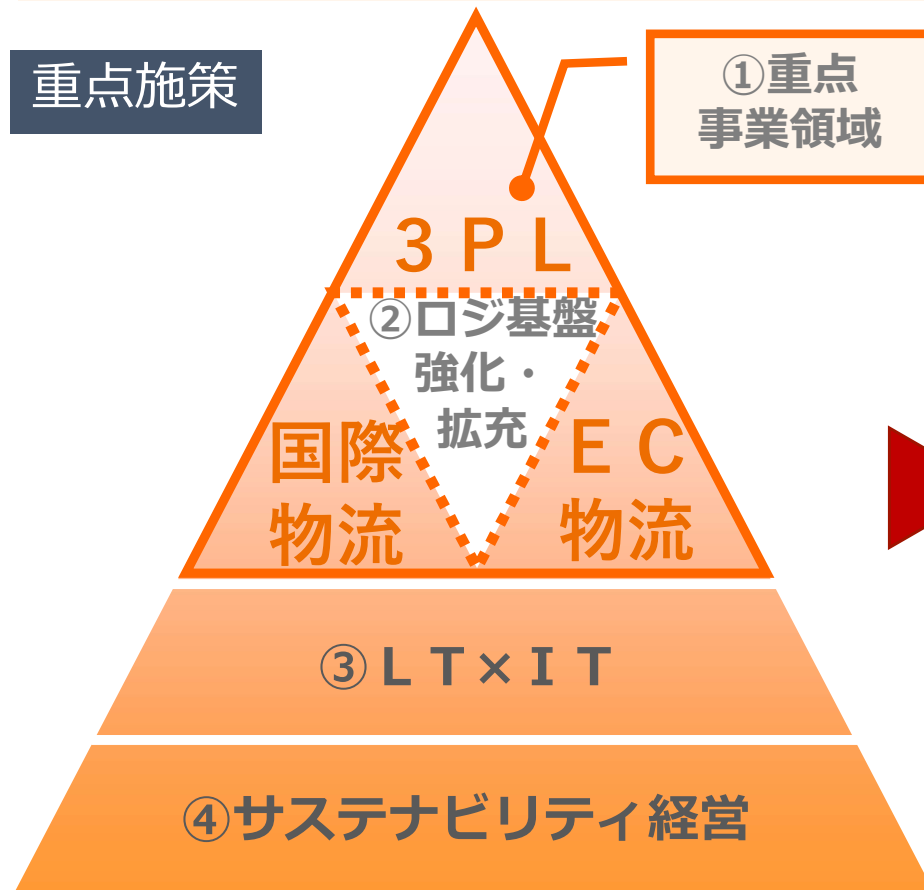
01 2023年度連結決算概要

02 SBSグループの成長戦略

「SBS Next Stage 2025」概要

- ▶ グループ内でのインフラ共有化（プラットフォーム化）を通じ規模のメリットを追求すると同時に、グループ各社の特色を生かした独自事業戦略を強化・拡充
- ▶ さらなる成長のため、インフラ投資（物流施設、LT×ITを中心に）を加速
- ▶ サステナビリティ経営への取り組みを強化

重点施策



数値目標

	FY23(実績)	FY24(予想)	FY25(目標)
売上高	4,322	4,500	5,000
物流	4,090	4,248	4,681
不動産	138	151	219
その他	93	100	100
営業利益	197	210	275
物流	115	130	190
不動産	79	79	80
その他	3	4	5

(単位：億円)

3PL

■ グループ各社の特性に応じた3PL事業の組織体制強化

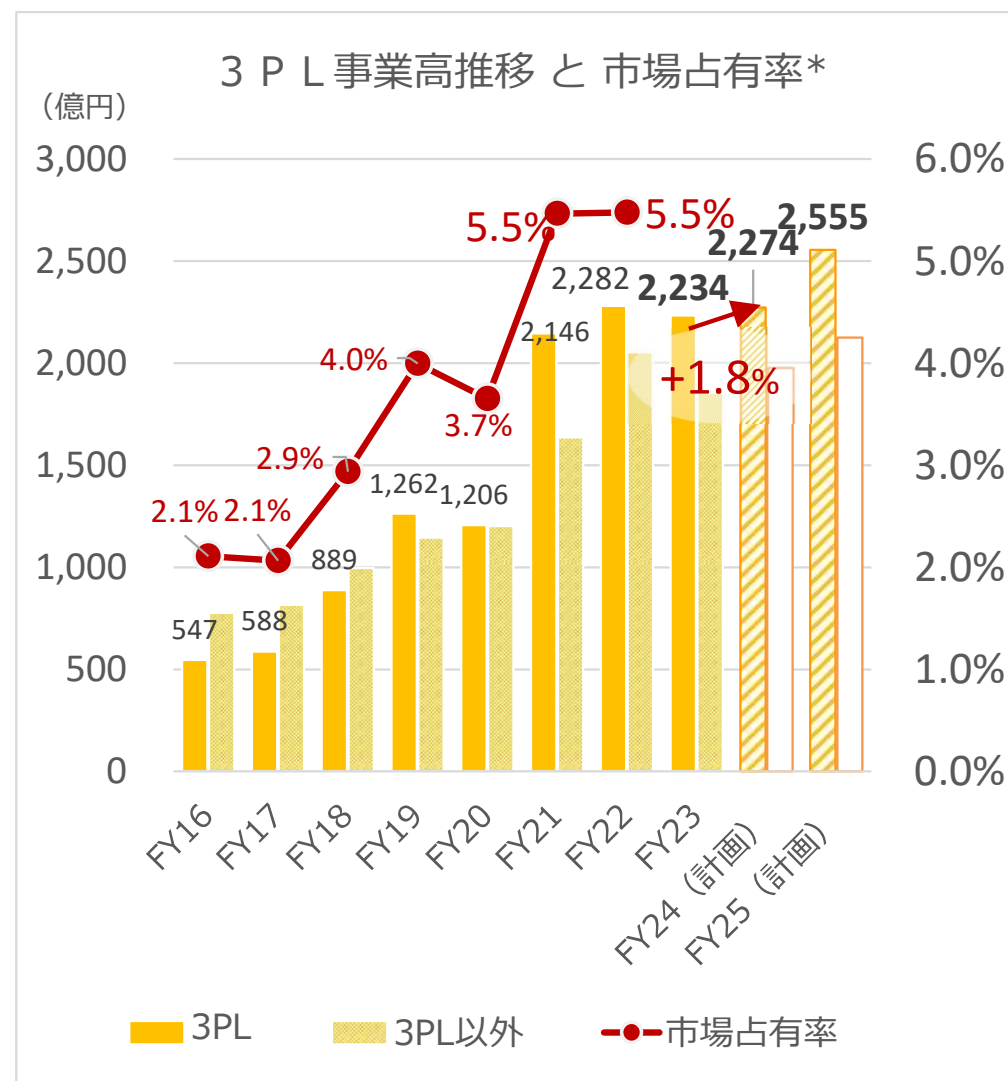
- ▶ 事業ごとの縦割り営業体制を一元化
- ▶ 再配置、中途採用を通じ営業人財を増強
- ▶ 既存荷主のフォローアップ体制強化
- ▶ グループ内の営業情報共有促進

■ 23年度の3PL受託状況

- ▶ 家電量販店、事務機器やオフィスサプライ、既存荷主の取扱物量を積み上げ
- ▶ EC、ドラッグストア、小売、卸売業などのお客様を新規獲得

23年度…家電、半導体、メディア通販等の低調が響きグループ全体の業績は足踏み

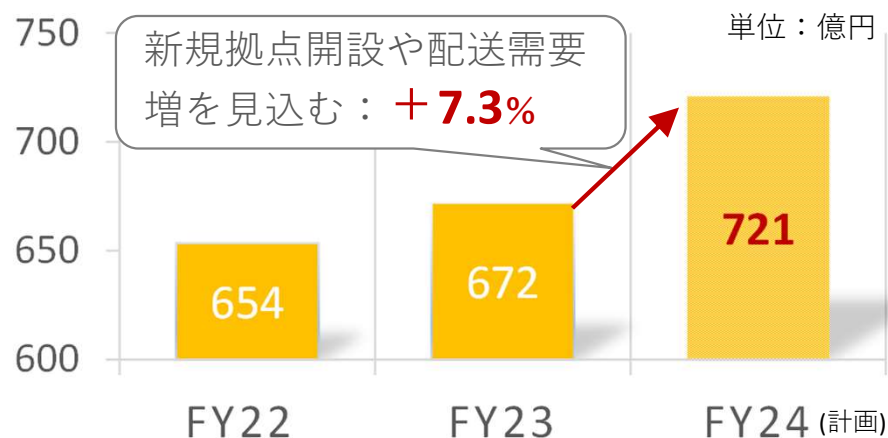
24年度以降…各社の営業体制強化、新規拠点開設（野田瀬戸・横浜福浦等）が順次貢献、新規・既存顧客双方での成長再加速を見込む



*市場占有率…月刊「LOGI-BIZ」 2023年9月号
「3PL白書」のデータに基づき当社作成

EC物流

売上高推移：EC物流



「EC物流お任せくん」第1号拠点が2/16オープン！ EC野田瀬戸物流センター支店

@野田瀬戸A棟4F、1万坪

■あらゆるEC事業者様にフィットする
多様なファシリティとサービスメニュー

└ **本格撮影スタジオ** → ささげ業務の一括受託が可能

└ **三温度帯設備、定温庫**

→ 冷凍、冷蔵品、化粧品、サプリメント等にも対応

└ **日中電力を自家発電で供給** → CO2排出量を抑制

■ 今秋～、棚口ボ、高層型ロボット等LTの本格運用を開始

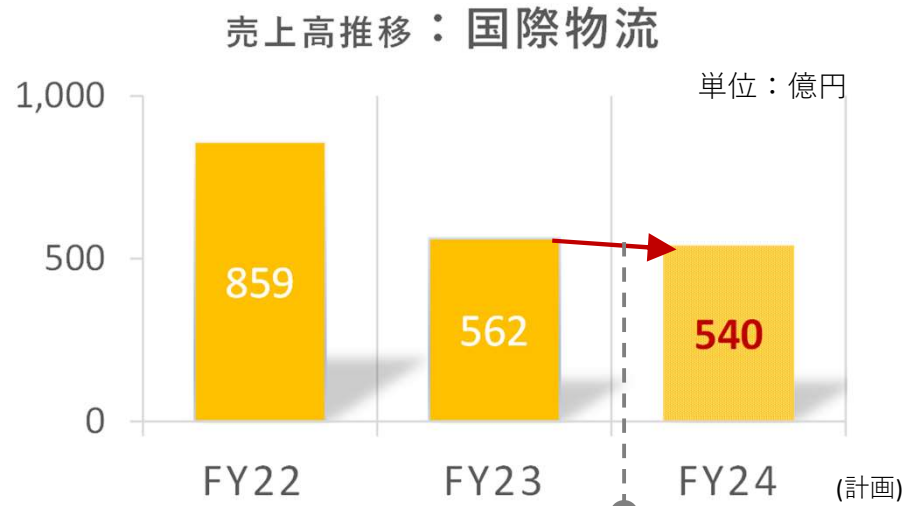


野田瀬戸物流センター 概要

住 所	千葉県野田市瀬戸字池袋
交 通	常磐自動車道「柏」ICから約5 Km
敷地面積	73,271㎡ (22,164坪)
延床面積 構 造	167,867.79㎡ (50,780坪) RCS造地上4階建
サステナ ビリティ関連 設備	・ 自家利用の太陽光発電 (4.7MW) ・ 自家用発電機設置 (停電時に対応) ・ 井水利用設備 ・ 備品・防災倉庫設置

SBS Next Stage 2025 重点施策1：3PL/EC/国際

国際物流



23年度は、コロナ特需剥落に伴い対前年比35%減。24年度も急回復は期待できず微減を見込む：－4%

23年度の取組みと成果

- ① **競争力ある価格設定を実現**：SBS東芝ロジ、SBSリコロジ、SBS古河物流3社のボリュームメリットを生かし、フォワーディングの共同購買開始
- ② **拠点統合**：同地域内のグループ会社の拠点を統合
- ③ **クロスセル**：国内企業を中心に海外物流案件の受託活動を推進。拠点単位の協働営業も加速



■ 24年度以降の取り組み

ILS-Pj 発足

International Logistics Strategy – Project
海外現法を持つ3社（SBS東芝ロジ、SBSリコロジ、SBS古河物流）のリソースの相互活用を強みに、協働して新規顧客獲得を目指す

ローカル物流強化とグローバルSCM再構築

M&A、物流施設開発、3PL運営内製化等
国内における成長戦略の海外転移を企図し検討を開始

SBS Next Stage 2025 重点施策2：ロジ基盤強化・拡充 運営面積拡大計画

- 海外拠点7.5万坪、国内中小規模増床を足し合わせ97万坪に
- 24年2月、野田瀬戸A棟の竣工で100万坪超となる

※黄色マーカー：2023年6月末以降の更新箇所

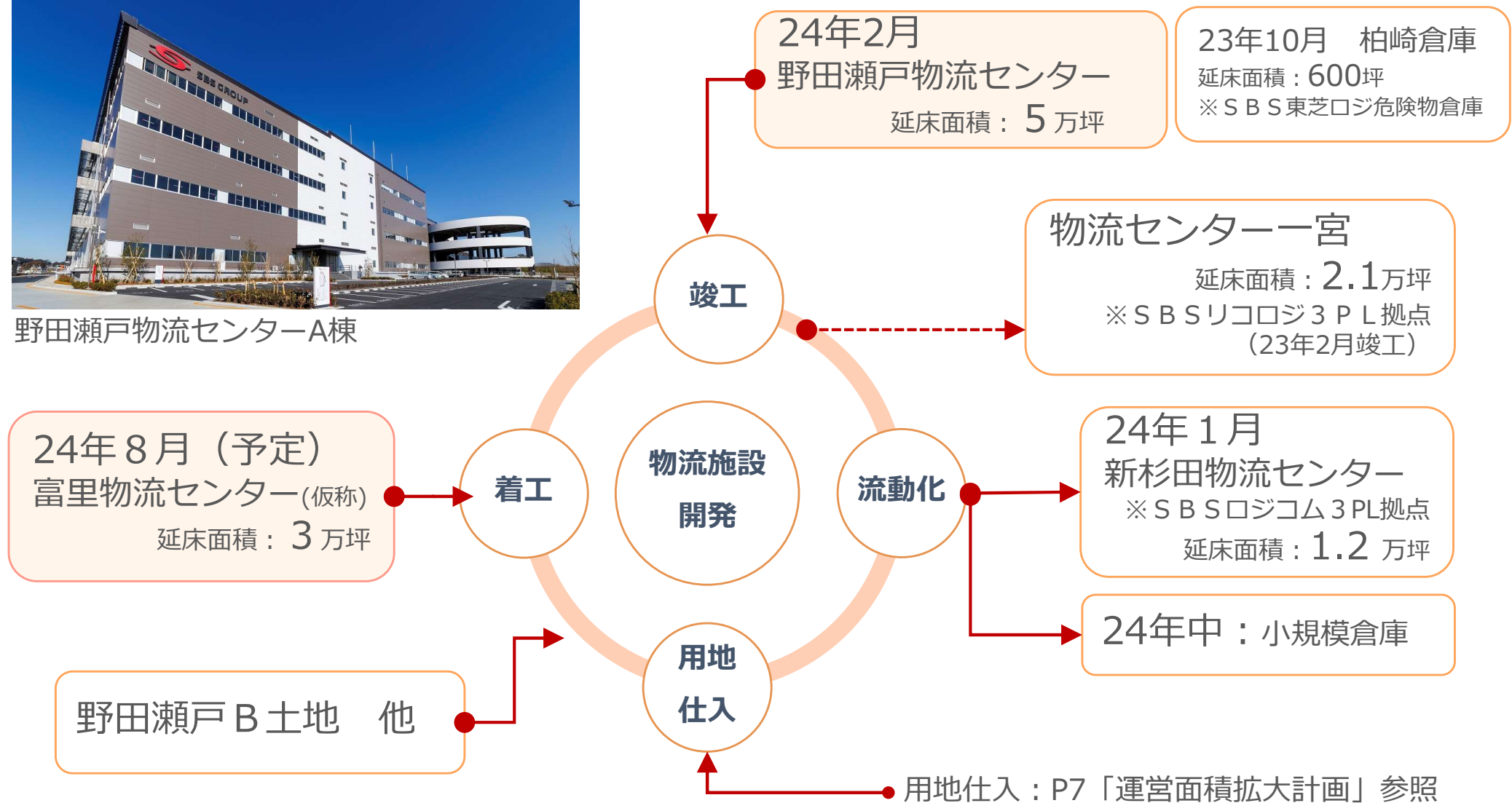
名称	所在地	稼働(連結)時期	種別	延床面積/坪	運営会社
2022年12月末までの運営面積				813,100	
東北低温DC	宮城	2023年2月	賃借	3,400	SBSフレック
丸岡営業所	福井	2023年3月	賃借	1,300	SBSリコーロジスティクス
物流センター一宮	愛知	2023年4月	自社開発	17,400	SBSリコーロジスティクス
大阪住之江物流センター	大阪	2023年4月	一棟賃借	5,700	SBS東芝ロジスティクス
柏崎倉庫	新潟	2023年10月	自社開発	600	SBS東芝ロジスティクス
2023年 国内増減	全国	2023年	賃借	51,700	SBSグループ
海外拠点集約	海外	2023年	賃借	75,000	SBSグループ
2023年12月末までの 運営面積				968,200	
野田瀬戸A棟	千葉	2024年2月	自社開発	43,800	SBSアセットマネジメント
一宮センター	愛知	2024年2月	賃借	2,600	SBSフレック
厚木センター (仮称)	神奈川	2024年9月	一棟賃借	4,300	SBSフレック
(小規模増床)	埼玉・岡山	2024年度中	賃借	6,100	SBS東芝ロジスティクス
三重倉庫	三重	2024年4月	自社開発	600	SBS東芝ロジスティクス
横浜福浦物流センター(仮称)	神奈川	2024年8月	一棟賃借	18,000	SBSリコーロジスティクス
タイ土地	タイ	計画中	自社開発	8,000	SBS東芝ロジスティクス
富里開発計画	千葉	2024年8月(着工予定)	自社開発	30,000	SBSアセットマネジメント
野田瀬戸B棟	千葉	計画中	自社開発	39,500	SBSアセットマネジメント
所沢土地A	埼玉	計画中	自社開発	7,000	SBSロジコム
所沢土地B	埼玉	計画中	自社開発	4,000	SBS即配サポート
横芝光町土地	千葉	計画中	自社開発	60,000	SBSロジコム
かすみがうら市土地	茨城	計画中	自社開発	20,000	SBSロジコム
八潮土地	埼玉	計画中	自社開発	2,400	エルマックス
2024年1月以降の増床計画				246,300	
運営面積合計(既存+計画中)				1,214,500 坪	

SBS Next Stage 2025 重点施策2：ロジ基盤強化・拡充

物流施設開発パイプライン動向



野田瀬戸物流センターA棟



SBS Next Stage 2025 重点施策3：LT×IT

LT導入状況

■ LT導入状況（23年12月末）

12拠点にて12種のLTが稼働中。

- ・ GTP（Goods to Person）：227台(基)
- ・ ソーティング：48台(基)
- ・ 搬送：36台
- ・ 梱包：1台

■ 野田瀬戸物流センター(24年2月竣工)

4F：EC野田瀬戸物流センター（EC物流お任せくん）

- ・ 今秋より、GTP系LT50台以上が稼働予定。
- ・ その他LTも、お客様の商品を見極めながら検討中。

2-3F：野田瀬戸物流センター（SBSロジコム）

- ・ SBSグループ初のAGF(自動フォークリフト)採用決定

■ 物流センター一宮(23年2月竣工)

グループ最大規模となる176台の棚搬送ロボフル稼働中



SBS Next Stage 2025 重点施策4 サステナビリティ経営基盤の強化、人的資本に係る取組み

ガバナンス強化 と ESG経営基盤強化

サステナビリティ経営の根幹を支えるものとし、重要課題であるグループ共通の制度作りおよび安定的な運用体制を構築。

- ▶ 23年1月：サステナビリティ基本方針 策定
サステナビリティ推進委員会 設置
- ▶ 23年3月：ポジティブ・インパクト・ファイナンス 契約
- ▶ 23年6月：人権方針、ダイバーシティ方針 制定



マテリアリティ「環境」に関する取組実績

1トクラスの 商用次世代型EVバン F1VAN 導入開始！



2021年10月から2年におよぶフォロフライ社との共同試験運用を経て実用化。

- ▶ 23年度末実績：19台 ▶ 24年度末計画：約100台導入へ

マテリアリティ「人財」に関する取組実績

それぞれに優れた能力と風土を持つグループ各社混成での研修、戦略部門への登用を行い、人財力の底上げと各社の強みをグループ内へ水平展開

- ▶ 23年1～12月：次世代経営層、若手リーダー育成プログラム 実施
- ▶ 23年10～12月：新設戦略部門（EC物流）メンバーを、全グループ会社を対象とした公募で募集、23年12月～24年2月にかけて組織化を行い始動

主要グループ会社の業況および成長戦略

- SBSグループでは、グループ会社固有の保有能力を最大化し、**個社の自律的な成長をサポートすることで企業価値向上を実現**
- 物流事業の業績約7割を占める主要3社（SBS東芝ロジ、SBSリコロジ、SBSロジコム）の成長戦略は、グループ成長にとって重要なキーフアクターとなる

単位：億円

成長戦略	23年度 (実績)	24年度 (計画)	増減
SBS東芝ロジスティクス ✓ メーカーSCMの上流工程における物流提案（4PL）が可能な3PLが強み ✓ 家電、半導体、超重量品、医薬機器等のプラットフォーム活用で新規営業を加速 ✓ 人事・処遇制度見直しの他、業務プロセスのDX化を推進中	1,151 43	1,178 45	+2% +5%
SBSリコロジスティクス ✓ SBSグループをけん引するリーディングカンパニーを目指す ✓ 強みとする精密機器、オフィス用品のEC物流をベースに、新たにチャレンジする業界・領域を絞り込む『狙い撃ち戦略』で新規案件獲得の精度向上	1,013 34	1,078 42	+6% +24%
SBSロジコム ✓ グループの風土メーカーとして、グループ会社間のハブ的な役割を担う ✓ 営業開発における獲得力・持続力の安定化を支える人財確保、経営基盤再整備 ✓ 倉庫増床と空床整理を通じ資産効率を向上させる取組みを促進中	*734 *57	760 59	+4% +4%

上段：売上高／下段：営業利益（経営管理料控除前）

*：23年10月吸収合併した東洋運輸倉庫の実績を含む

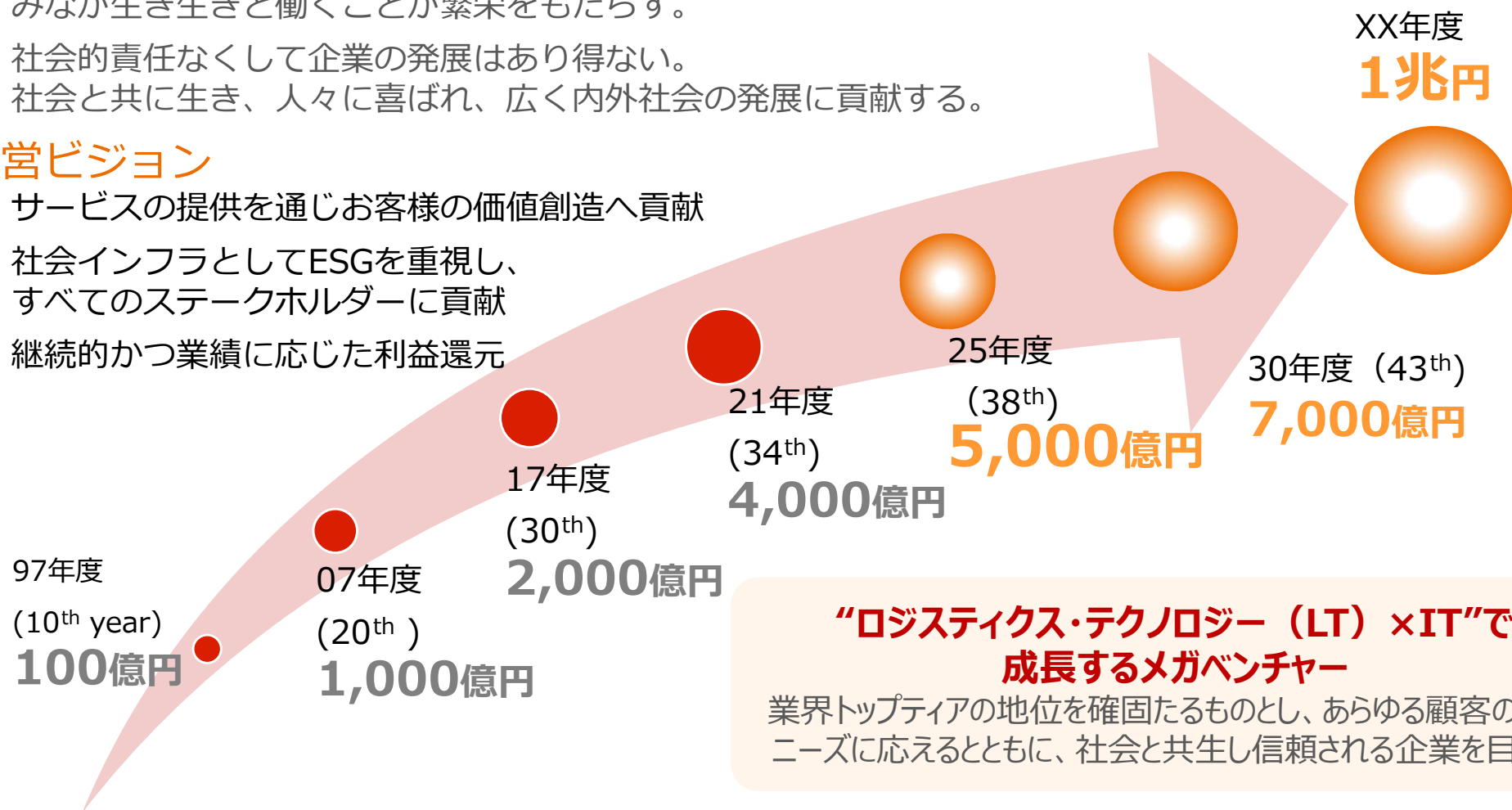
目指す姿

経営理念

- われわれの提案するサービスによって、お客様に喜ばれ、株主に喜ばれ、そして社員の幸せにつながる会社を目指す。
- 企業の永遠の繁栄は、人を大事にすることにある。
みなが生き生きと働くことが繁栄をもたらす。
- 社会的責任なくして企業の発展はあり得ない。
社会と共に生き、人々に喜ばれ、広く内外社会の発展に貢献する。

経営ビジョン

1. サービスの提供を通じお客様の価値創造へ貢献
2. 社会インフラとしてESGを重視し、
すべてのステークホルダーに貢献
3. 継続的かつ業績に応じた利益還元



**“ロジスティクス・テクノロジー（LT）×IT”で
成長するメガベンチャー**

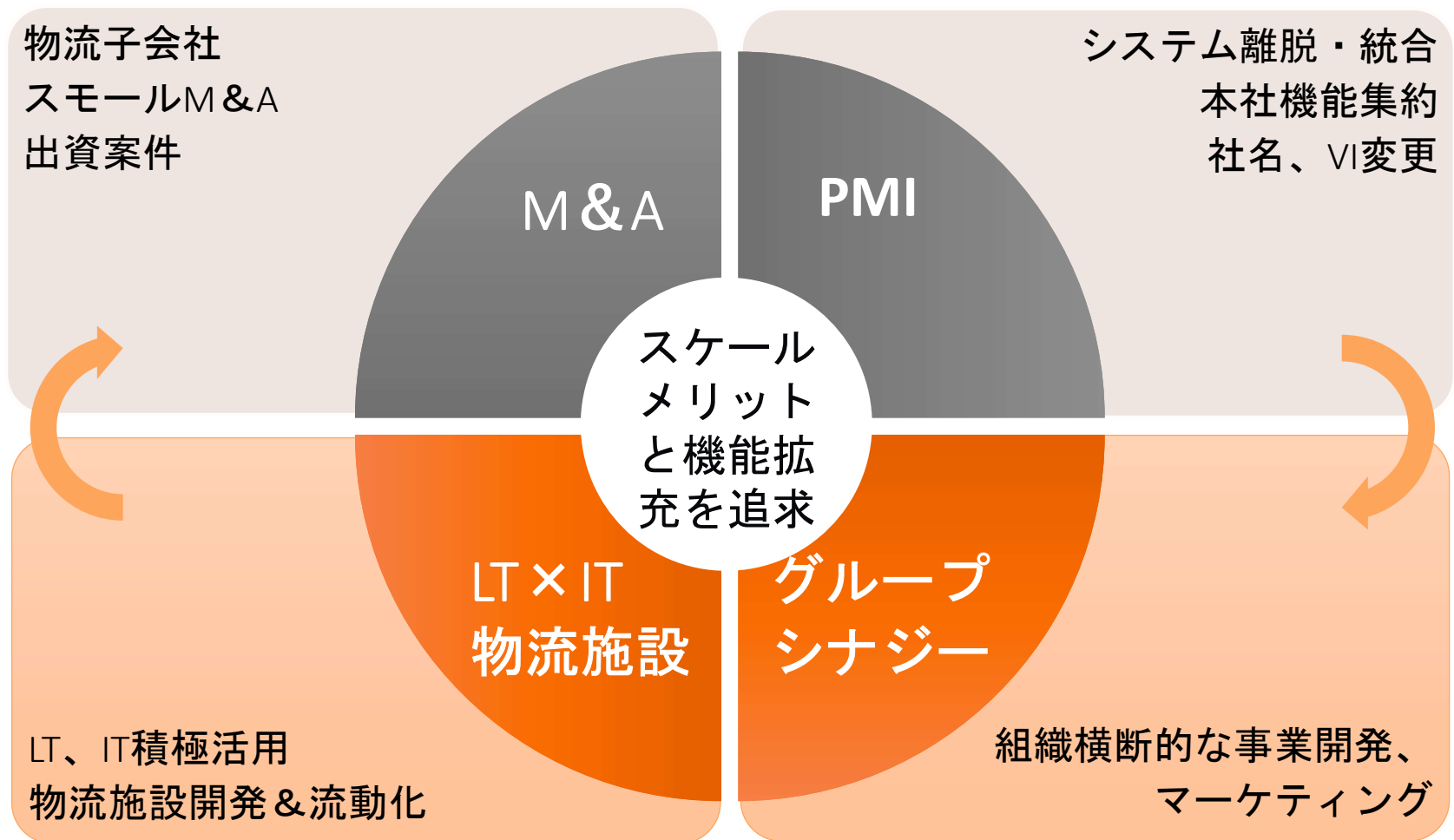
業界トップティアの地位を確固たるものとし、あらゆる顧客の物流ニーズに応えるとともに、社会と共生し信頼される企業を目指す

ご参考資料

APPENDIX

SBSグループの成長戦略

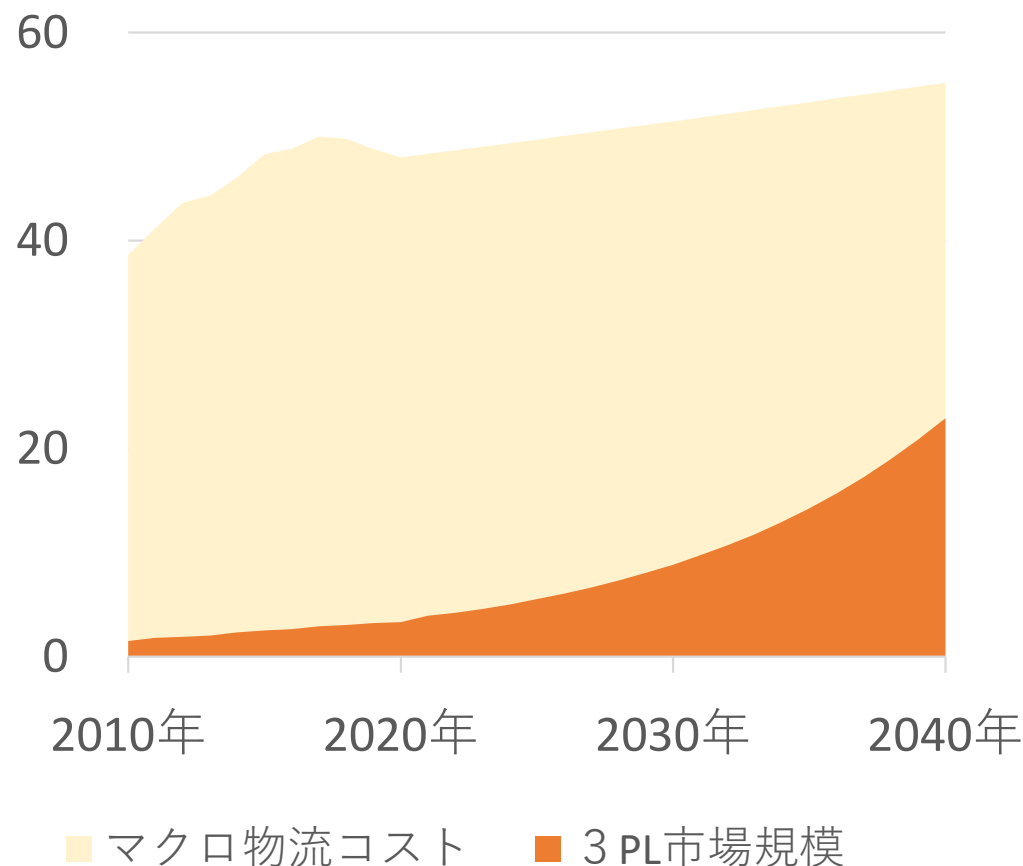
- M&Aを通じた非連続的成長と物流事業の自律的成長が有機的に作用
- グループシナジー創出の基盤となるPMIは国内屈指の実績を有する



物流の高度化がもたらす市場構造の変化

- 2010～2022年の3PL市場規模のCAGRは、8.4%
- 荷主企業にとって、社内に内在する物流機能は、今後高騰する人件費や燃料費に加え、2024問題にかかる労働時間規制などに対応するため、効率化のための多額の投資が必須となる。これによりコスト負担感が増すことから、今後はアウトソーシング化が加速する見通し
- 従来は主に省コストの為に注目されていた3PLだが、投資能力を有する物流専門の事業者の高い専門性や高度なシステムを求める荷主が増加
- 豊富な実績とLT、ITの専門部隊を持つSBSグループのニーズが高まると見込む

単位：兆円



※JILS「2022 年度 物流コスト調査報告書」、LOGI-BIZ「3PL白書」(23年9月号)のデータをもとに作成。
3PLは2023～2024年CAGR9.0%、2025年以降のCAGRを10%とし、マクロ物流コストは2021年度以降のCAGRを0.7%とした。

M&A実績

- FY03～、JASDAQ上場以来、成長戦略の柱の一つとしてM&Aを実行
 - FY03～FY22、20年間の投資総額は、約830億円（売上高:**24**倍 営業利益:**56**倍）
 - 国内大手企業の物流子会社を中心にM&Aを実施、PMIを通じて企業価値向上を実現

FY	主要M&Aの沿革
04	・ 雪印 物流（現:SBSフレック）
05	・ 東急 ロジスティック ・ ティーエルトランスポート ※旧 小田急 トランスポート （3社とも現SBSロジコム）
06	・ 全通（現:SBSゼンツウ）
10	・ ビクター ロジスティクス （現SBSロジコム）
18	・ リコー ロジスティクス （現SBSリコーロジスティクス）
20	・ 東芝 ロジスティクス （現SBS東芝ロジスティクス） ・ 東洋運輸倉庫（ SMC グループ）
21	・ 古河 物流（現SBS古河物流）



資産（保有不動産）の概要

賃貸物件数：31物件

【種別】

倉庫・駐車場…	21
オフィス・店舗…	6
レジデンス…	3

- 1都3県の21物件で賃料収入の9割を占める

- 年間賃料5,000万円以上…9物件

【倉庫】

深川倉庫、川越倉庫、戸田倉庫、
南越谷倉庫、京田辺倉庫

【オフィス・店舗】

南新宿SKビル、渋谷新南口ビル、
鶴見尻手ビル、若林賃貸

自社保有拠点：30拠点

【敷地面積】

5,000坪以上…	12拠点	+	用地 4ヶ所
3,000坪以上…	8拠点		
1,000坪未満…	10拠点		

- 敷地面積5,000坪以上の拠点、拠点用地

SBS東芝ロジ：中部、九州、北関東

SBSリコロジ：BC京浜島

SBSロジコム：所沢物流、土浦、新杉田
若洲（旧東洋運輸倉庫）

横芝光町土地

かすみがうら土地

SBS古河物流：関東物流、亀山

エルマックス：BC一宮、野田瀬戸A、
富里土地、野田瀬戸B土地

将来予測について

- 本資料に記載されている業績予想ならびに将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいており、リスクおよび不確実な要素を含んでいます。従いまして、実際の業績は、経済情勢や市場動向等により、記載されている予想数値と大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

【お問い合わせ先：IR・広報部】

Tel : 050-1741-2240

Mail : contact11@sbs-group.co.jp

URL : <https://www.sbs-group.co.jp/sbshlds/ir/>



SBS GROUP

For Your Dreams.